

# 平成25年度 事業実績報告書

社会福祉法人正榮会

さかえ保育園

福祉に経営的概念が必要といわれて久しいが、その実情は、福祉にまつわる様々な制度が変わってきたことによりその必要性が高まってきたに過ぎない。福祉もサービス産業であり、そこに賃金を対価とする労働を必要としサービス提供のための資源や資材を消費する。福祉事業には労務管理と業務管理が最低限あれば足りる。民間企業との大きな違いは、事業が社会保障の一環として位置付けられ、運営費、行政からの委託費等で賄われていることである。そのため社会福祉法人の運営する事業は定型的なサービス提供となりがちで、新たなサービスを創り出しその価格を決めることなどありえないといってもよい。社会福祉法人は新しいサービスを創り出すことが不得手といわれるが、構造的に新しいサービスを創り出せるような仕組みにはなっていない。

昨今、社会からの風当たりが強くなってきている社会福祉法人の過剰な留保金問題を上手くかわし緩和させるためのスケープゴートにも見える手法が横行し、資金に余裕のある社会福祉法人が留保金をマネーロンダリングするための手立てと見えても仕方のない手法が画策されているのである。その理由は、端的に言えば、社会福祉法人の一部の経営者が任意に集まって創りあげた団体の独善的なものだからだ。よくあることだが、初めに企画や計画ありきで、最初からあらゆる議論を避けたかたちで進められたプロジェクトが世のフォーマルな考えのようにされている。事実、プロジェクトの推進母体となった都道府県社協の経営者部会の役員は、ほとんどが自己推薦によって就任している。他薦によって予定外の者が役員に入ると役員の人数を増やしてまで従前の役員を就任させるということもしているので、予め新事業を可決し採択するための頭数合わせがなされていたものと思われる。

こうしてみると事業の必要性とその意味を問う根本的な議論がなされたかどうかは非常に疑わしくなる。度重なる子ども子育て会議が進行し行政主導的内容で認定こども園構想ができつつある。待機児童解消の名のもとにこれら事業が展開してきているが、新事業を日本のフォーマルと称して国内の社会福祉法人に参画を求めるならば、プロジェクトに当たる者の人選はもっと慎重に行うべきではなかったろうか。表向きは事業に賛同する法人の任意の参加となっているが、賛同を示す法人がどれ程あるのだろうか。資金力のある古参法人か真に篤志家を理事長とする法人でしか事業を受託することは困難になるのではないか。

社会福祉法人の「社会的使命」と言われれば、法人関係者は常に襟を正すのは当然であろう。だから社会福祉法人の社会的使命という名目さえあれば、社会福祉法人をいつでも簡単に踊らせることも可能であり、そこに暗黙の強制力を埋め込むこともできる。真面目に福祉事業への投資を続けて地域に貢献し、必要な修繕なども自力で行ってきたかどうかは、社会的使命という問いかけには意味をなさない。世間は社会福祉法人に経営を求めると同時に法人の福祉への純粋な意識と行動を求めようとする。営利活動を行わないとする枷を着けたまま福祉法人は永遠のバーจินロード歩まねばならない。だからこそ社会福祉法人には堅実な経営が求められるのだ。

堅実な法人経営に欠かせない最たるものは人材力ということになるが、人材を確保し、育成し事業の一助となるまでには当事業所では概ね5年程度の歳月が必要となる。園長着任から丸10年経過し、相当数の入退職者を繰り返してきたが、概ね職員が育ち離職率も低下しつつある。しかしながら、十分とは言えない人件費原資をもって就労はさせている。経験年数分の昇給等の影響でさらに人件費比率は上がり、平成25年度決算では総収入額の84%に至っている。職員処遇改善費等の未収金が発生し運転資金不足が懸念されたが最終定期には決算内容通りの結果となった。

例年行っている第三者評価については利用者調査のみの年となり、保護者の皆様にご依頼申し上げ実施した結果、80%以上の回収率があり、当園における保護者の皆様の意識の高さを感じさせられるアンケートになった。

年間の行事については例年通りの部分もあるが、園外活動の合宿については北軽井沢を拠点に活動した。

苦情に関しては、平成26年4月2日に児童保護者より園の運営方針が合わないとの理由から退園希望が出された。年度期首を過ぎているため保育料が発生することを伝えたところ4月分保育料は支払わないという意向を伝えられた。これに伴い、管轄窓口より保育料徴収が困難なため年度末3月中に退園したことにしてほしいと依頼され了承した。退園理由に更なる含みがあったようだが当方は認知していない。

平成25年度新規入職者、保育士3名、産休代替保育士1名、産休代替看護師1名、退職者、保育士2名。

各クラス事業報告、保健衛生報告、給食報告は以下の通り。

## 0歳児

担任：西村・中島・吉田

養護	健康的な生活リズムを整えていく為に、個々の健康状態を把握できるよう、家庭との連携を取ることに大切にしてきた。保育時間が長い園児には一日の睡眠リズムや体調面などの連絡も意識し保育者同士の情報の共有に努めた。
教育	<p><b>【健康】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・排泄は個々の排尿間隔を把握しながら、オマルやトイレに無理なく誘って移行していった。仕草や言葉で知らせ、排尿した時には喜び合いながら自信に繋げていくことができた。</li><li>・睡眠は室内の温度・湿度・換気・射光に留意し、安心して眠れる環境作りを心掛けた。家庭と連携を取りながら、リズム作りに努めていった。</li><li>・着脱は自分でやろうとする意欲に繋がるよう、言葉を掛けるなど援助していった。</li><li>・遊びは安全で活動しやすい環境を整え、身体機能の発達を促す遊びを十分に行った。年間を通して、様々な素材や道具、玩具で指先を使用して遊べるように提案していった。(助木、トンネル、マット、巧技台、風船、ボール、小麦粉粘土、新聞紙、シール、スポンジ、クレヨン、型落とし、札落とし、大型積み木)</li></ul> <p><b>【人間関係】</b></p> <p>子どもからの様々な要求や主張を受け止め、関わることで信頼関係を築くことに努めていった。安心できる保育者との関わりの基に、友達存在を知り触れ合い遊ぶ楽しさを感じられるように援助していった。</p> <p><b>【環境】</b></p> <p>季節毎に草花、実、落ち葉、雪、氷などに実際に触れる機会を多く持てるようにした。散歩時には犬、猫、鳥、鳩、ポニーなどの身近な物の名前を発し、知る事が出来るように言葉を掛けていった。</p> <p><b>【言葉】</b></p> <p>発声や喃語に優しく応じ更に引き出すと共に、個々の指差しや発語など伝えようとしている事を受け止め、保育者とのやりとりを楽しんできた。絵本や手遊び、歌等を通して発語を促していった。</p>

	<p><b>【表現】</b></p> <p>日々の中で、手遊び、うた、体操を行い、リズムに乗って体を動かすことを楽しむようにしてきた。</p>
食育	<p>家庭や栄養士と連絡を取り合いながら、個々の発達に合わせた授乳や離乳食を進めていくことを意識した。楽しい雰囲気の中で手づかみ食べから、スプーン、フォークを使って食べようとする意欲を育む言葉を掛けていった。</p>

## 1 歳児

担任：藤森・永塚

養護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分で」というやりたい気持ちの芽生えを大切にして、時間をかけて最後までやろうとする姿を見守り、援助を行った。また、褒める、認めることにより自分でできたという喜びを十分に感じられるようにした。</li> </ul>
教育	<p><b>【健康】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄は、個々に合わせて排尿間隔を見ながらトイレへ誘い、無理なくトイレでの排尿を身に付けるようにした。また布パンツへの移行では、布パンツで過ごす時間を調節していった。トイレで排尿した時や布パンツが濡れてしまった時は、その都度言葉掛けをすることで自信や意欲に繋げていった。</li> <li>・午睡は、保育者が傍について寄り添い、また一人で入眠するようになる。体力がついてくると、入眠まで時間がかかる子どもや、目覚めが早い姿も見られたが、その間も布団の中で静かに過ごせるよう伝えていった。</li> <li>・着脱は、「自分で」という姿が多くみられ、ボタンの付け外し、衣服の前後にも興味を示し、行うようになってきた。「できない」という時には、やり方を伝えながら援助をする、褒めるなどの言葉掛けをすることにより自分でやろうとする意欲を引き出していった。</li> <li>・活動の中では、戸外で走る、玩具や固定遊具などを使って、投げる・跳ぶ・昇る等、保育者と一緒に十分に身体を動かして運動面の発達を促すようにした。また室内でも、広々と安全な環境の中で、体操・肋木やトンネルなどを使って身体を動かす機会を設け、紐通しやパズルなど指先を使った遊びも取り入れながら、個々の発達を促していった。</li> </ul>

	<p><b>【人間関係】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる保育者との関わりの中で、少しずつ友達に興味を示し、関わりが広がっていった。玩具の取り合いなどから、思いを上手く伝えられずに叩く、押す、噛みつくなどの行動が見られたが、保育者が仲立ちをして「貸して」「ありがとう」などのやりとりを伝えていくことで、玩具を分けて遊ぶ姿も見られた。また、年下の友達にも興味を示し、頭を撫でて優しく接するなどの異年齢児との関わりを少しずつ意識するようになってきた。</li> </ul> <p><b>【環境】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・晴れた日は、水元中央公園や水元公園へ行き、戸外で伸び伸びと身体を動かして遊び、季節ごとの自然物に十分触れられるよう戸外遊びの機会を多く設けた。保育者や友達と手繋ぎで散歩する中、異年齢児との手繋ぎを嫌がる姿があったが、少しずつ慣れてくると年上の友達との関わりも多くみられるようになった。戸外に出た際、氷や雪などを使った季節の遊びや、落ち葉や木の実などの自然物に触れる、集めるなどの遊びが楽しめるよう言葉掛けをしていった。</li> </ul> <p><b>【言葉】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身振り手振りで保育者に欲求を伝えようとしていたが、そこから単語と指差しが増えていき、二語文、多語文また、遊びの中や保育者との言葉のやりとりを楽しむようになった。また友達同士で名前を呼びかけるなどの姿も見られ、言葉でのやりとりを楽しめるよう仲立ちなどを行い、更に言葉を引き出し、言葉の発達を促した。</li> </ul> <p><b>【表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の歌や手遊びを保育者と一緒に楽しみ、リズム遊びや体操で、音楽に合わせて身体を動かす。保育者の動きを模倣しながら、動物を真似る、しゃがむ・ひねる・ジャンプする等の様々な動きを行い、表現遊びを楽しめるようにした。製作を通して、のりなど身の回りにある様々な素材に触れる機会を設けた。自由画では、なぐり描きをするだけでなく「ねこ」や「車」など円を描いて表現をし、顔の部位を描こうとするなど、描きたい物を形で表わすようになってきた。</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育活動では、様々な野菜に触れることで、名前や色に興味を示し、様々な食材を意欲的に食べるようになってきた。また、簡単なマナーや正しいスプーン・フォークの持ち方を知らせて、正しい姿勢で食べるように習慣づくよう伝えていった。</li> </ul>

## 2歳児

担任：小西・大泉

養 護	<ul style="list-style-type: none"><li>・日々の生活の中で少しずつ見通しをもち、活動するようになる。個々に言葉掛けが必要なこともあったが、進んで身の回りのことを行おうとするようになる。</li><li>・「自分で」という思いを一人一人もち、その気持ちを十分に受け止めながら安心して過ごせる環境の中健康的に過ごした。</li></ul>
教 育	<p><b>【健康】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・排泄は少しずつ尿意・便意を伝えトイレにて排泄を行うようになる。排便後の始末を自分で行うことがまだ十分でない子どもには介助をしながら後始末の仕方を知らせるようにした。</li><li>午睡時は一人で入眠できるよう見守るが、一日の活動や体調により入眠までの時間に個人差があった。</li><li>・着脱は衣服の前後や裏表を確認しながら行うようになり脱いだ服を自分できちんとたたんで片付ける。スナップボタンやファスナーなど介助を必要とする子どももいたが進んで行う。言葉掛けによりズボンにシャツを入れようとするが、まだ個人差が見られる。</li><li>・運動面は、散歩時少しずつ距離を伸ばしていき、遠くの公園まで歩いて行くことで体力が付き長い距離を無理なく歩くようになった。又、固定遊具や室内での運動遊びの中で、走る・跳ぶ・まわる・くぐる等の基本的全身運動を身につけた。指先遊びでは楽しみながら細かい作業を行っていき指先の細かい動かし方を身につけていった。</li></ul> <p><b>【人間関係】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・友達とごっこ遊びや集団遊びを通して友達との遊びが少しずつ広がっていく。「貸して」「ありがとう」と子どもたち同士での物の貸し借りや順番を守ることなど少しずつ行えるようになった。</li></ul> <p><b>【環境】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・公園に散歩に出かけると、さまざまな物に興味を示し、探索遊びをするようになる。また、季節の移り変わりを保育者と一緒に見つけることで、身近な自然物や動植物などにも親しみをもちながら触れる。</li></ul> <p>色・数・形にも少しずつ興味が始めるが個人差もあるので生活や遊びの中で取り入れ、認識できるように行っていく。</p>

	<p><b>【言葉】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や紙芝居などを集中して見ることや、物語を聞くことができるようになる。友達や保育者と言葉でのやりとりを行うようになり、自分が経験したことや思ったことなどを言葉で伝えようとする。</li> </ul> <p><b>【表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現遊びでは友達と一緒に歌をうたい、手遊びを楽しむ時間を活動の中に多く取り入れた。</li> <li>・製作ではさまざまな素材に触れながら製作することに興味を示し、積極的に行う。ハサミの使い方を知り、一発切りを楽しむ。ハサミの動かし方の安定しない子どももまだいる為、引き続き活動の中で身につけていく。</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理保育や食材紹介を通して、さまざまな食材に触れることで食材の名前・色・形・匂い・大きさ・触感にも興味を持ち、自分たちが調理したものを保育者と一緒に見つけながら食べることを楽しむ。又、自分で調理することで苦手なものも少しずつ食べられるようになる。</li> </ul>

### 3 歳児

担任：森

養護	<p>保育者との信頼関係を築き、個々の欲求を受け止め、安定した生活を送る中で、少しずつ自分の思いや考えを伝え、また相手の気持ちをわかるようになる。</p>
教育	<p><b>【健康】</b></p> <p>保育者に見守られながら着脱、排泄、食事など身の回りのことを自分で行うようになる。戸外活動後は、手洗いやうがいを丁寧に行おうとする習慣が身につき、衣服が汚れた時は自ら着替えようとする。食事では食器の持ち方、並べ方、姿勢、三角食べなど様々なマナーについて知り、マナーを守って食べるようになってきた。戸外活動は友達と一緒に身体を動かして遊び、自然探索をして自然に触れる機会を多く設定する中で、集団で遊ぶことや自然に対する興味・関心を深めるようにした。</p>

	<p><b>【人間関係】</b></p> <p>個々の遊びから少しずつ集団での関わりが増え、平衡遊びから共通の玩具を通して友達と一緒に遊びを楽しむようになる。その中で玩具の取り合いや遊び方などで気持ちをぶつけあうことが多くなるが、ぶつかり合いをする中で相手の気持ちを知ろうとするようになる。集団遊びでは約束事やルールあることを伝え、守ることの大切を感じさせるようにした。</p> <p><b>【環境】</b></p> <p>探索活動を通して子どもたちが感じたこと、発見したこと、感動した事に共感して自然に対する興味や関心を深めるとともに、疑問に思ったことを一緒に調べることで、少しずつ理解していくことの楽しさを感じられるように心がけた。また、遊びや活動を通して色・数・形に対する認識を高めるようにした。</p> <p><b>【言葉】</b></p> <p>生活や遊びの中で保育者や友達との会話を通して語彙力が高まり、言葉でのコミュニケーションがとれるようになり少しずつ会話を楽しむようになった。会話の中で相手の気持ちを少しずつ考えるところも見られるようになってきた。絵本や紙芝居の話喜んで見ることや聞くことによって内容を理解しながら、言葉の言い回しなどを楽しんでいる。</p> <p><b>【表現】</b></p> <p>製作は用具や材料の使い方を知らせながら、題材を変えて用具や材料に慣れるよう進めた。また製作した作品や描いた絵を園内に飾ったりする事で、作ったり描いたりする楽しさや喜びを感じるようにした。楽器遊びは楽器の持ち方や扱い方を知らせながら、音色の違いを感じさせるようにして楽しみ、リズムに対する興味をもつようにした。表現遊びを通して様々な役になって自由に表現すること、子ども達が考えた歌に合わせての表現を取り上げ広めることで、役になりきって表現することや音に合わせて動き考えることの楽しさを感じるようにした。</p>
<p>食育</p>	<p>保育者や友達と一緒に楽しく食事が行えるように、食事の場が楽しい雰囲気になるように心がけた。調理保育を通して食材の名前を知り、実際に触れて感触を確かめることで興味を持ち、苦手なものでも少しずつ食べるようになった。給食のメニューの中に自分たちで調理した食材が入っていると、とても喜び食べることへの意欲、調理することの関心に繋がった。三食群は少しずつ理解する様子が見られる。</p>

## 4 歳児

担任：牧野

養 護	<p>室内の温度・湿度・換気等に注意しながら、生活及び活動しやすい環境設定を行い、保育上の安全にも留意した。</p> <p>子どもたち一人一人の気持ちや考えを受け止め、心身の成長を援助するとともに自主的な行動を見守ることで、さまざまな活動に意欲的に取り組むようになった。</p>
教 育	<p><b>【健康】</b></p> <p>身の回りのことを自分で行う意識をもち、基本的な生活習慣が身に付いていった。活動や気候に合わせて衣服の調節を行い、手洗いうがいなど清潔面なども意識して行っていた。</p> <p>集団遊びやルールのある遊びを取り入れていくことで、友達を誘って身体を積極的に動かして遊んでいた。またさまざまな運動用具に興味を持って取り組み、励まされることで諦めずに挑戦する姿が見られた。</p> <p><b>【人間関係】</b></p> <p>保育者や友達との関係を深めていく中で、一人一人が決まりの大切さに気付き守ろうとする姿が見られるようになった。友達と喜びや楽しさを共有するようになった一方で、意見の食い違いなどによるトラブルも多く見られた。自己主張が強く、相手の話を聞いて気持ちを受け入れるまでに時間を要し、仲立ちを必要とすることが多く見られたが、少しずつ相手の気持ちを受け入れ自分たちで話し合っ解決することも増えてきた。</p> <p>異年齢児に親しみをもって関わる、年長児の姿に憧れや関心を持って真似をするなど、積極的に関わりをもって遊ぶ姿が見られた。</p> <p><b>【環境】</b></p> <p>園外活動の際には季節の移り変わりが十分に感じられるよう話をし、身近な自然を見て触れることで、興味や関心、疑問をもたせ、知識を深めることができるように促した。畑活動、チューリップ栽培、ポニー教室等の身近な動植物の世話を通して生命の尊さや大切さを伝えていった。また時計を意識できるように言葉掛けを行い、絵本やカルタ遊びなどを通して、生活や遊びの中で数や文字に対する興味を深めるようにした。</p>

	<p><b>【言葉】</b></p> <p>経験したことや興味のあることなどを保育者や友達に話し、友達の話聞くなど会話を楽しむようになる。相手に分かりやすいように言葉を考えて伝え、疑問に感じたことを積極的に尋ねる姿も見られるようになった。絵本や紙芝居を好んで集中して見ており、感想を話してイメージを共有し合って楽しむ姿が見られた。集中して最後まで保育者の話を聞くことや日常の言葉遣い、話の内容理解は個々に応じた言葉かけを行う必要がある。</p> <p><b>【表現】</b></p> <p>歌やリズムに合わせて身体を動かし、動きを考えることを楽しんで表現活動を行い、楽器遊びでは音の違いに興味を持ち音楽活動に対する意欲が高まっていった。歌詞の内容を理解しやすいように伝えることで、楽しんでうたう姿が見られた。発表会では好きな絵本を題材に劇を行うことで、イメージを共有し役になりきって演じる楽しさを感じていた。</p> <p>絵画製作では一人一人のイメージを大切に受け止め、達成感を味わえるように個々の援助を心掛け、最後まで丁寧に仕上げていく大切さを伝えていった。</p>
食 育	<p>三色群活動、調理保育、行事食に期待感を持ち楽しみながら参加することで、食に対する興味や関心が深まっていった。食事では一定時間内に終えようと意識をして、苦手なものでも自分から食べようとした。</p> <p>食事のマナー、箸の使い方は個々の状態に応じて言葉かけを行っていく必要がある。</p>

## 5 歳児

担任：小林善樹

養 護	<p>一人一人の気持ちや考えを受け止め、安心感をもって十分に個人の力を発揮して活動に参加できるように努めた。また生活環境を整えた中で、安全で快適な生活が送れるように留意し、心身ともに健康的に過ごせるようにした。</p>
教 育	<p><b>【健康】</b></p> <p>基本的な生活習慣が身に付き、生活リズムも整い自立した生活を送れるようになり、健康面や生活面で必要な習慣も自ら進んで行えるようになったが、十分に身に付いていない子どももいた。</p>

運動面は年間を通して水元公園などに行って集団遊びを行い、運動用具を使用し全身を動かして運動することにより運動能力を高めるように努めた。その中で目標をもち、諦めずに取り組む大切さを学び友達と励まし合って最後まで取り組む姿が見られた。

#### 【人間関係】

進級当初は相手の思いや気持ちを理解出来ずに受け入れることができず、友達同士のトラブルがおきて手が出てしまうこともあったが、日々の生活、夏合宿、運動会、雪合宿と様々な経験をすることで友達同士の関わりが深まり相手のことを考えながら生活するようになってきた。異年齢児に対しても優しさをもって接し、友達を助ける姿も多く見られた。

#### 【環境】

年間を通しての戸外活動を行ってきた中で、季節の草花や自然事象を通して季節の移り変わりを自然の様子から感じるとともに、一つ一つの自然物や事象に関心を深め、保育者に質問をし、図鑑で調べるなどして探究しようとした。また、行事についての由来に対する関心をもち絵本や紙芝居、保育者の話を聞き、行事に参加する経験を通して理解を深めていた。

#### 【言語】

年間を通して絵本や紙芝居に多く触れ、見る、聞く、自ら読むことでイメージを広げ、想像力をもつことができるようになった。また覚えた話を他児の前で素話として披露することを行った。

自分の考えや思いをわかりやすく言葉にして友達に伝え、相手の話を理解しながら聞く態度が身に付いた子どもが多いが、十分に身に付けられなかった子どももいた為、話を聞くことの大切さをもっと感じられるようにしていくべきであった。

文字や数字に対する関心が高く、十分に理解し読み書きすることを楽しむ子どもが多くいたが、関心、認識が低い子どももいたため、より遊びの中に文字や数字を取り入れ、全員が関心をもてるようにしていく必要があった。

#### 【表現】

一人一人の個性を尊重し、自由な表現を引き出せるように努め、発表会の劇では自分達で台詞の言い方や動作を考え、自信をもって表現する楽しさを感じていた。絵画では、イメージをしっかりとって取り組む子どもが多く見られた反面、イメージがもてず、表現することが苦手な子どもも見られたが、絵画活動を経験していく中で、自分のイメージを認めて受け止めてもらっている安心感から、少しずつ自分

	<p>なりのイメージを表現するようになっていった。</p> <p>製作活動は細かい部分まで丁寧に行う意識が強くなり集中して製作に取り組む姿が見られた。</p> <p>音楽活動はうたいながら歌詞の内容を楽しみ、楽器は音色に親しみリズムやテンポを意識しながら友達と一緒に演奏する楽しさを感じていた。</p>
食育	<p>毎月の調理保育では様々な食材に触れ、包丁の使い方や食材の切り方を学び、おやつ作りを通して調理の楽しさを感じていた。季節の食材紹介では、その季節の旬の食材についてとても興味をもっていた。三色群やバランスガイドでは、食材の栄養やどういう食材を食べるとどう身体に作用するのか深く学んでいた。</p>

## 保健事業報告

看護師：山本

### 【児童の健康診断について】

乳児健診・全園児健診共に、第3木曜日で行われた。

### 【健康状態の観察】

保健部会、朝礼、終礼を通して、朝の視診、受入について職員間で統一出来た。

また、児の状態の変化の都度、担任から情報を得た。

### 【投薬について】

一週間ごとに与薬依頼書を受けて軟膏塗布を行った。今年度は長期間に渡って依頼する慢性疾患の子どもが数人いた。

### 【症状の対応・事故防止のための取組み】

年間の保健部会時に、治癒証明書・通知書・登園届けについて、外傷・打撲、痙攣時の対応、誤飲時・口腔内の怪我・骨折・火傷の対応、感染症、予防接種、心肺蘇生術について、知識の確認を行った。

### 【虐待などへの対応】

平成25年度、身体的虐待の報告確認はなかった。

その他、性的・心理的・ネグレクトなどの問題も、保育士との情報交換を密に観察していた。

### 【疾病への対応】

保護者会や保健だより等で、緊急の際の連絡先の確認について発信していたために、スムーズに連絡が行えた。

### 【怪我の対応】

平成21年度より、擦り傷等は湿潤療法施行中。

### 【保健部会】

日 時 毎週月曜日 (13時30分～14時15分)

参加者 各担任、看護師、栄養士

※乳児・幼児部会の中で実施する。

目的 主に、看護師と保育士の保健に関して。  
各月の病欠・子どもの健康面・保健指導・保健連絡の場として活用できた。  
引続き内容を検討し、充実させていきたい。

#### 【保健指導について】

##### ◎園児対応

指導として、歯磨き・風邪予防（手洗い、うがい）・咀嚼について行った。  
歯磨きに関しては、春・秋の定期歯科健診の結果から、口腔内清掃状態の不良の子どもの増加を止めるための取組みとして1歳児からの歯磨き実施、繰り返し定期的な指導に加えて、幼児クラスでは食後に3クラス合同の「1分歯磨き」を担当中心に行なった。  
いずれの指導に関しても、紙芝居や歯の模型を使用し子どもに分かりやすく興味を引く内容を心がけ、担任と共に指導していった。

##### ◎職員対応

【症状の対応・事故防止のための取組み】でも挙げたように、年間の保健部会時に治癒証明書・通知書・登園届けについて、外傷・打撲、痙攣時の対応・誤飲時・口腔内の怪我・骨折・火傷の対応について、知識の確認を行った。  
また、各病気に関して、ヘルニア・いちご状血管腫・プール熱・手足口病・ヘルパンギーナ・蕁麻疹・アトピー性皮膚炎・喘息・斜視・RSウイルス感染症・その時々のある子どもに起こった病気についての知識をその月内で行えるように継続していきたい。

#### 【身体測定の結果について】

保護者に個人表でお知らせし、年度末には年間差を報告した。

# 給食室事業報告

栄養士：岩崎、渡辺、中島千宝、中島千尋

## 1. さかえ保育園給食室の方針と事業計画を立てる。

### 〈給食室としての方針〉

しっかり食べる子どもを育てるということを基本に、食べ物に関心の持てる子どもに育てる。給食室としては、食べ物に関心を持てる子どもに育てるために『食を営む力の基礎』を培っていきたい。食べ物に関心のもてる子どもに育てるために、より良い食事提供に努める。

#### (考え方)

『食べ物に関心の持てる子ども』に育てるためには、食育を進めていく必要がある。

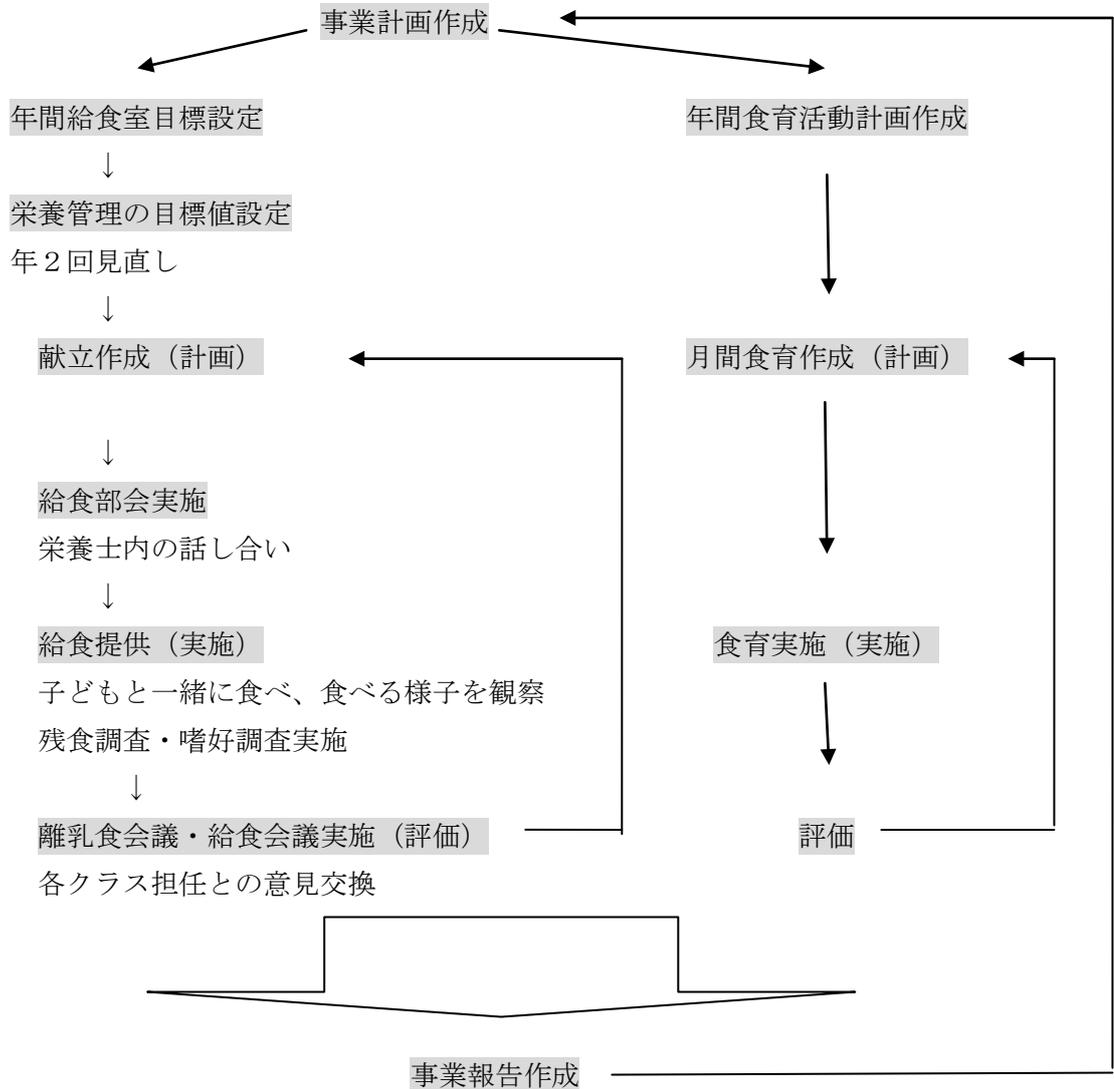
食育は概略図を基に進めていき、食を営む力を付けていく。

食を営む力とは 料理をする力 味がわかる力 食べ物の育ちがわかる力 食べ物を選ぶ力 元気な体がわかる力 行事を知る力と考える。その力をつけるために年齢別に年間食育活動を立て、調理保育や栄養教育などを進めていく。その他にも、保育士と密に連携して、保育年間カリキュラムや月間指導計画の食育内容を立てる。また、給食年間計画を立て、それを考慮した献立作成をし、より良い食事提供を行っていく。

(平成22年3月 厚生労働省 児童福祉施設における食事提供ガイド参考)

《具体的な事業計画》

●より良い食事提供の進め方（概略図）●



（その他）

- ・ 幼児部会 乳児部会における保育士、看護師との定期的な意見交換を実施
- ・ 試作会の実施
- ・ 食事アンケートを実施し家庭状況を把握し、献立に反映させる

●食べ物に関心の持てる子に育てるために●

料理をする力・・・調理保育、栄養指導、マナー指導など

味がわかる力・・・甘い、しょっぱい、すっぱい、苦い、おいしい(基本味)、  
匂い（食材の匂い、焼いた匂い、揚げた匂い）など

食べ物の育ちがわかる力・・・畑での野菜栽培、魚さばき、食材紹介、  
 毎日の給食など  
 (食べ物や作ってくれた人への感謝の気持ち)

食べ物を選ぶ力・・・食材の原形・感触、旬の食材、目で見えて食べたくなる食事、  
 彩り、食事形状、スタイルなど  
 (幼児室に子ども用ひらがなの献立表を掲示)

元気な体がわかる力・・・三色群の食材の働き、バランスガイド、栄養指導

行事を知る力・・・行事食、行事の話

料理をする力、味がわかる力、食べ物の育ちがわかる力、食べ物を選ぶ力、元気な身体がわかる力、行事を知る力を概略図の様に、計画通り進めることができた。

今年度、れんげ組のお箸練習では、子どもたちが少しでも楽しめる様に絵の上をなぞる、まめっこ等のことを取り入れた。子どもたちも楽しんで行っていた。次年度は更にマナーやおにぎりの握り方等を伝える時に子どもたちが楽しんで覚えられる様なことを取り入れていきたい。現段階では、絵を用いたものは使用しているので、歌やエプロンシアター等の教材があれば取り入れていきたい。

## 2、栄養給与目標（昼食・おやつでとりたい栄養量の目安）

	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	鉄分 (mg)	V.,A ( $\mu$ g)	V,B1 (mg)	V,B2 (mg)	V,C (mg)	食物繊維 (g)	塩分 (g)
3才未満児	478	18	15	220	2.1	190	0.25	0.28	20	3.8	1.9
3才以上児	560	21	18	250	2.2	200	0.32	0.36	20	4.5	2.2

(平成25年度10月目標量)

計画通り行うことができた。  
 成長曲線や推定必要エネルギー量の活用をもっと具体的に行なっていきたい。

### 3、食育について

#### ○給食年間目標○

	目標	給食室配慮
4・5月	楽しい雰囲気の中でみんなと一緒に園の食事に慣れる	切り方や味付けを工夫し食べやすい、食べ慣れている献立を中心に進める
6月	マナーに気をつけ、よく噛んで食べる	梅雨の時期なので、胃腸を整える食材を上手に食事に活かす。また、食後の歯磨きの大切さやよく噛んで食べることで、虫歯予防になる事も伝える。 食育月間の為、食事のマナー指導を行い正しいマナーを伝えていく。
7・8・9月	暑さに負けずにしっかり食べる	さっぱりした献立や夏や残暑の疲れを回復させる食材を多く取り入れ、食欲が湧くようにする。 食事のマナー指導を行い、正しいマナーを伝えていく。(9月)
10・11月	バランス良く食べ、丈夫な身体をつくる	秋の味覚を取り入れて食品や料理の幅を広げる。食欲を満たす献立や量を工夫する。
12月	食事することに喜びを感じ、意欲的に食べる	旺盛になった食欲を維持させるように食事量に気をつける
1・2月	寒さに負けずに楽しく食べる	体が温まる食材を取り入れ、温かい給食提供に努める。 食事のマナー指導を行い、正しいマナーを伝えていく。(1月)
3月	みんなと一緒に楽しく食べる	春らしさを感じる料理を取り入れる

給食年間目標と年間食育活動を基本に、給食会議、離乳食会議、幼児部会、乳児部会等を利用して各担任、看護師と連携をとり、その発達段階などを考慮して進めていく。食育は実施したものについては記録を残し、評価を行い、次回に活かしていく。更に、食育がただやるだけにならない様に、各担任と進め方やねらい等を話し合い、より子ども達の意識が高まる様に職員間の意識向上に努めていく。

計画通り行うことができた。

#### 4、外部への情報提供計画

- ・保護者への園便り『給食より』 月間予定献立表を配布（1回／月）
- ・レシピ配布（1回／月）離乳食レシピ（4回／年）
- ・当日の給食の実物展示
- ・バランスガイドの表示
- ・園の食育の取り組みについて紹介
- ・当月の給食の栄養素量（エネルギー・蛋白質・脂質・食塩）等の掲示→献立表に記載
- ・ホームページでの公開  
（当月の献立表・園便り『給食より』 調理保育実施予定表など）
- ・給食室前に保護者への情報提供の掲示（1回／月）  
（食に関する情報を掲示・配布）
- ・食育実施毎に、保護者へ向けて給食室前に食育内容を掲示。又、ツイッターにて食育実施の知らせや内容を発信。
- ・食材産地の掲示、ツイッターでの発信

計画通り行うことが出来た。かつしか知っ得メモの掲示を今年度より行なっているので、次年度より計画書に記載していく。次年度の食に関する情報を掲示・配布においては行事食の由来等の情報を提供していくことを計画したい。

#### 5、職員との連携計画

##### <保育士との連携>

- ・ 毎日の献立の嗜好調査の記入
- ・ 各子どもの成長・体調・食における家庭環境を随時確認
- ・ 給食会議、離乳食会議（各1回／月）
- ・ 乳児部会、幼児部会（各2回／月）
- ・ 食育の打ち合わせ随時

##### <看護師との連携>

- ・ 子どもの成長・体調を随時確認
- ・ 子どもの発育・発達の確認
- ・ 流行病を知る
- ・ 衛生管理情報の確認

計画通り行うことができた。引き続き行っていきたい。  
成長曲線、推定必要エネルギー量の活用を具体的に行っていきたい。

## 6、アレルギー児への対応

- ・ 随時、保育士、看護師を交えて話し合いを行う
- ・ 4月、10月、計2回のアレルギー指示書の提出
- ・ 全体職員会議にて対象児童のアレルギー児食の確認を行い、保護者へは次月の給食内容(除去・代替食)を面談にて確認
- ・ 保護者へアレルギーで除去し、補えない栄養素などを栄養指導

計画通り行うことができた。引き続き行っていきたい。

## 7、離乳食について

(別添えの離乳食のしおり参照)

- ・ 離乳食面談実施 (保護者、栄養士、保育士)
- ・ 連絡帳や保護者、保育士からの子どもの家庭の食事確認
- ・ 子どもの食べる様子確認
- ・ 離乳食会議実施 (栄養士、保育士、看護師)

計画通り行うことができた。引き続き行っていきたい。

## 8、衛生管理について

(別添えの給食室マニュアル参照)

計画通り行うことができた。引き続き、最新の情報を取り入れながら行っていきたい。

## 9、給食室施設の設備について

(別添えの給食室施設の使用マニュアル設備参照)

計画通り行うことができた。引き続き、行っていきたい。

## 10、災害時の給食について

(別添えの給食室災害時献立参照)

3日分朝・昼・夕の献立作成を行い、非常食も調達した。  
引き続き、最新の情報を取り入れながら確認していきたい。